

ぼくの友だち

小 三

ぼくの友だちには、とくべつしえん学校に通っている子がいます。その子とは、ほいくしよで五年間いっしよにすごしました。

ぼくがその子にはじめて会ったころは、

「アーアー。」

とか、

「ウーウー。」

とか話していました。でも、何年もいっしよにいるうちに、だいたい言っていることが分かるようになりました。こまっっているときは、先生に言いに行っ

たり、できないことは手つだったりして、クラスのみんなで助け合いながら生活をしていました。

年長さんになった年の運動会で、その前の年までは走らないで見学していました。その子が、リレーに出ることになりました。みんなびつくりして、一しゅう走ることができるのかクラスのみんながふあんになりました。それから、毎日のようにリレーの練習をしました。練習をしたけっか、半しゅうだけ走ることにになりました。のこりの半しゅうはぼくが走ることにになり、きんちゅうしたことをおぼえています。バトンパス練習を何回もしたり、先生と手をつないで、コーナーを走る練習をがんばったりしているすがたを見て、ぼく

も、がんばって走ろうと、ゆう気をも
らいました。

本番では、みんながおうえんする中、
見事に走り切り、その子もすぐくよろ
こんでいました。そのすがたを見て、
先生もクラスのみんなもうれしそうで
した。

それから三年、ぼくもその子も小学
三年生になりました。学校はべつべつ
だけれど、たまに、ぼくの学校に来て
くれることがあります。会うたびにで
きるものがふえていて、「がんばって
いるんだ。」と思います。

他の友だちも、その子に会うのは楽
しみなようで、うれしそうです。

ぼくは、下校のときその子を見かけ
ることがあります。お母さんについて

もらいながら、自転車に乗っています。
そんなすがたを見かけるたびに、ぼく
もいろいろなことにはちようせんしてが
んばろうと、ゆう気をもらっています。